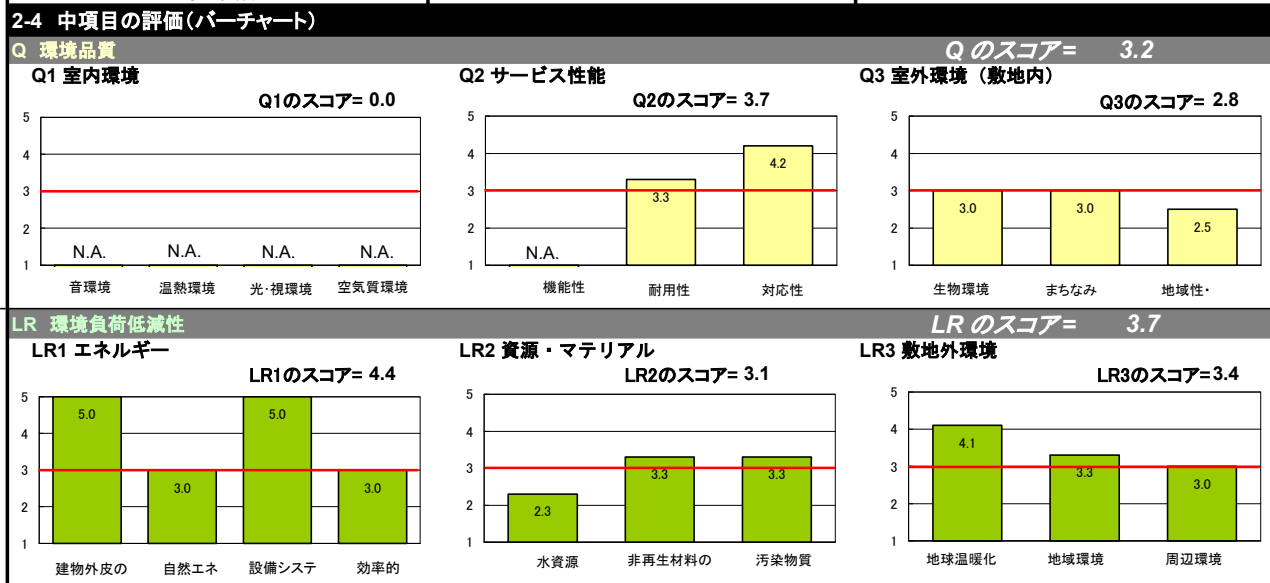
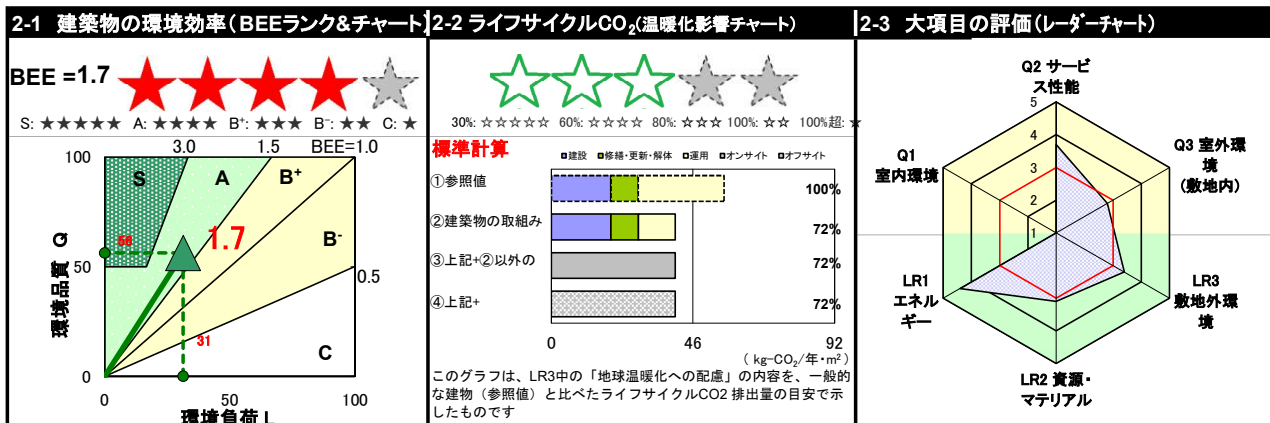


CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ESR日高ディストリビューションセンター新築工事	階数	地上4F
建設地	埼玉県日高市	構造	S造
用途地域	市街化調整地域、防火指定なし	平均居住人員	280 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2023年11月1日
敷地面積	17,286 m ²	作成者	
建築面積	9,113 m ²	確認日	2023年11月1日
延床面積	35,464 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 ・日高市に新築される物流倉庫である。 ・高効率な設備機器の採用等により、CO ₂ 削減にも積極的に取り組む計画となっている。		その他
Q1 室内環境 ・評価対象外	Q2 サービス性能 ・耐用年数の高い内装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮している。
LR1 エネルギー ・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・軽量鉄骨下地とユニット部材のOAフロアを採用することで、再利用可能性の向上に取り組んでいる。	LR3 敷地外環境 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)ESR日高ディストリビューションセンター新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境			-		-	-
1 音環境		-	-		-	-
1.1 室内騒音レベル		-	-		-	
1.2 遮音		-	-		-	
1 開口部遮音性能		-	-		-	
2 界壁遮音性能		-	-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-		-	
1.3 吸音		-	-		-	
2 温熱環境		-	-		-	-
2.1 室温制御		-	-		-	
1 室温		-	-		-	
2 外皮性能		-	-		-	
3 ゾーン別制御性		-	-		-	
2.2 湿度制御		-	-		-	
2.3 空調方式		-	-		-	
3 光・視環境		-	-		-	-
3.1 屋光利用		-	-		-	
1 屋光率		-	-		-	
2 方位別開口		-	-		-	
3 屋光利用設備		-	-		-	
3.2 グレア対策		-	-		-	
1 屋光制御		-	-		-	
3.3 照度		-	-		-	
3.4 照明制御		-	-		-	
4 空気質環境		-	-		-	-
4.1 発生源対策		-	-		-	
1 化学汚染物質		-	-		-	
4.2 換気		-	-		-	
1 換気量		-	-		-	
2 自然換気性能		-	-		-	
3 取り入れ外気への配慮		-	-		-	
4.3 運用管理		-	-		-	
1 CO ₂ の監視		-	-		-	
2 喫煙の制御		-	-		-	
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.7
1 機能性		-	-		-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-		-	
1 広さ・収納性		-	-		-	
2 高度情報通信設備対応		-	-		-	
3 バリアフリー計画		-	-		-	
1.2 心理性・快適性		-	-		-	
1 広さ感・景観		-	-		-	
2 リフレッシュスペース		-	-		-	
3 内装計画		-	-		-	
1.3 維持管理		-	-		-	
1 維持管理に配慮した設計		-	-		-	
2 維持管理用機能の確保		-	-		-	
2 耐用性・信頼性		3.3	0.50	-	-	3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.9	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	耐用年数の長い、外装仕上げ材を採用。	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い、内装仕上げ材を採用。	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出のダクトには、ガルバリウム鋼板を採用している。	4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途の上位3種(総重量)の2種以上にC以上を使用。	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常用発電機、無停電設備を設置。電源設備の地下設置回避。	4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA以上	4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	通信手段の多様化。精密機器の地下設置回避。CATV等の設置。	4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			4.2	0.50	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高6.0m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1未満	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-	
4,500N/㎡以上							
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	[BPI][BPI _m] 0.63	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEI _m] 0.43	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			2.3	0.20	-	-	2.3
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	中水利用システムの採用。	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	軽量鉄骨下地とユニット部材のOAフロアを採用。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP<0.01、1<GWP<50発泡剤を用いた断熱材を使用。	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			4.1	0.33	-	-	4.1
LCCO2排出率72%							
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
燃焼機器は使用していない。							
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

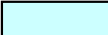
建物名称	(仮称)ESR日高ディストリビューションビル	BEE	1.7	BEEランク	★★★★
------	------------------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
4.1	+	3.0	=	7.1	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満		良い 6.0以上		非常によい 6.8以上	
				すばらしい 8.0以上	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	4.1
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.1
＜配慮した内容を記述＞ ・外皮性能を高め、高効率な空調機器やLED照明等の設備システムを導入することで、省エネルギー化を図り、環境負荷の低減へ努めている。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
＜配慮した内容を記述＞ ・特になし。			

 : 入力欄